



1896年明治三陸地震津波による釜石市の状況



津波防災教育のための教材一覧

- >
- 写真 >
- 資料・書籍 >
- 学区の白地図 >

写真

- 写真をご覧になる場合
 >>サムネイル画像をクリックしてください（ただし、Adobe Readerが必要）
- 写真をPDF形式でダウンロードする場合
 >>サムネイル画像を右クリックし、「対象をファイルに保存」を実行してく
- 写真をPPT形式でダウンロードする場合
 >>サムネイル画像左下のアイコンを右クリックし、「対象をファイルに保存
- 写真をJPG形式でダウンロードする場合
 >>サムネイル画像右下のアイコンを右クリックし、「対象をファイルに保存
 (zip形式で圧縮してありますので、ダウンロード後に解凍してくださ

過去の津波による釜石の被災状況

<p>写真01</p> <p>1896年明治三陸地震津波による釜石市の被害 (PDF/6.45MB)</p>	<p>写真02</p> <p>1933年昭和八陸地震津波による釜石市の被害 (PDF/31.0MB)</p>	<p>写真03</p> <p>1960年千禧地震津波による釜石市の被害 (PDF/8.17MB)</p>	<p>写真04</p> <p>1963年十勝沖地震津波による釜石市の被害 (PDF/5.15MB)</p>
---	---	---	--



白い雨が降るとぬける

尾(根の)先 谷(の出口) (お)宮の前(には家を建てるな)

雨に風が加わると危い

長雨後 谷の水が急に止まったらぬける

蛇ぬけの水は黒い

蛇ぬけの前にはきな臭い匂いがする

参加する！

- ・ そのために、ハザードマップを作成することは有効である。しかも単に行政が作成して、その情報を行政内にとどめておくものではなく、広く公開し、またそれを住民とともに検証していくことも必要である。
- ・ ハザードマップを住民自身が点検して作成していくこと住民自身が意識化する上で有効である。また、最近ではICTを活用して住民参加型ハザードマップづくりも行われている。そのような先端技術を駆使した方法もあるが、非常にシンプルながら、避難経路を時間距離で測り地図上に示す、「逃げ地図」づくりは、そのワークショップの過程で住民同志のコミュニケーションが活性化され、避難路整備にも展開していく効果を示している。

- ・ 「災害は、素因のある場所に誘因(豪雨等のhazard)が作用して発生する」といわれるように、どのような場所が素因となりやすいかという科学的知見を国民の間で共有する過程も大事である。豪雨災害による被害は、あらゆる場所で一様に生じているのではなく、発生しやすい場所(素因のある場所)で集中的に発生していることから特に、地形と人的被害の間に明瞭な関係が見られることが明らかになっている。これらデータや情報のリテラシーの向上も住民のリスクマネジメント能力向上に重要な点である。

近道整備案

事業費：0.35億 整備期間：3～6ヶ月



既存の道路を利用して、避難目標ポイントにより早く到達できるよう、6か所の近道を整備します。南の海岸部の避難時間が少し短縮されているのが分かります。

バイパス整備案

事業費：750億 整備期間：2～3年



避難目標ポイントにダイレクトにつなぐバイパス道を整備します。大掛かりな工事のわりに、避難時間の短縮はほとんど見られません。

避難タワー案

事業費：13億 整備期間：3～5年



避難タワーを逃げ遅れるリスクが高い地域に1つ整備します。
紫や黒の地域の大部分がなくなったことが分かります。かなり効果があると考えてよいでしょう。

丘案

事業費：35億 整備期間：3～5年



地形を利用して、避難目標ポイントとなる丘を整備します。
こちらも「避難タワー案」同様、避難に時間がかかっていた地域がかなり改善されました。かなり効果があると考えてよいでしょう。

ミニマム高台移転案

移転戸数：80戸

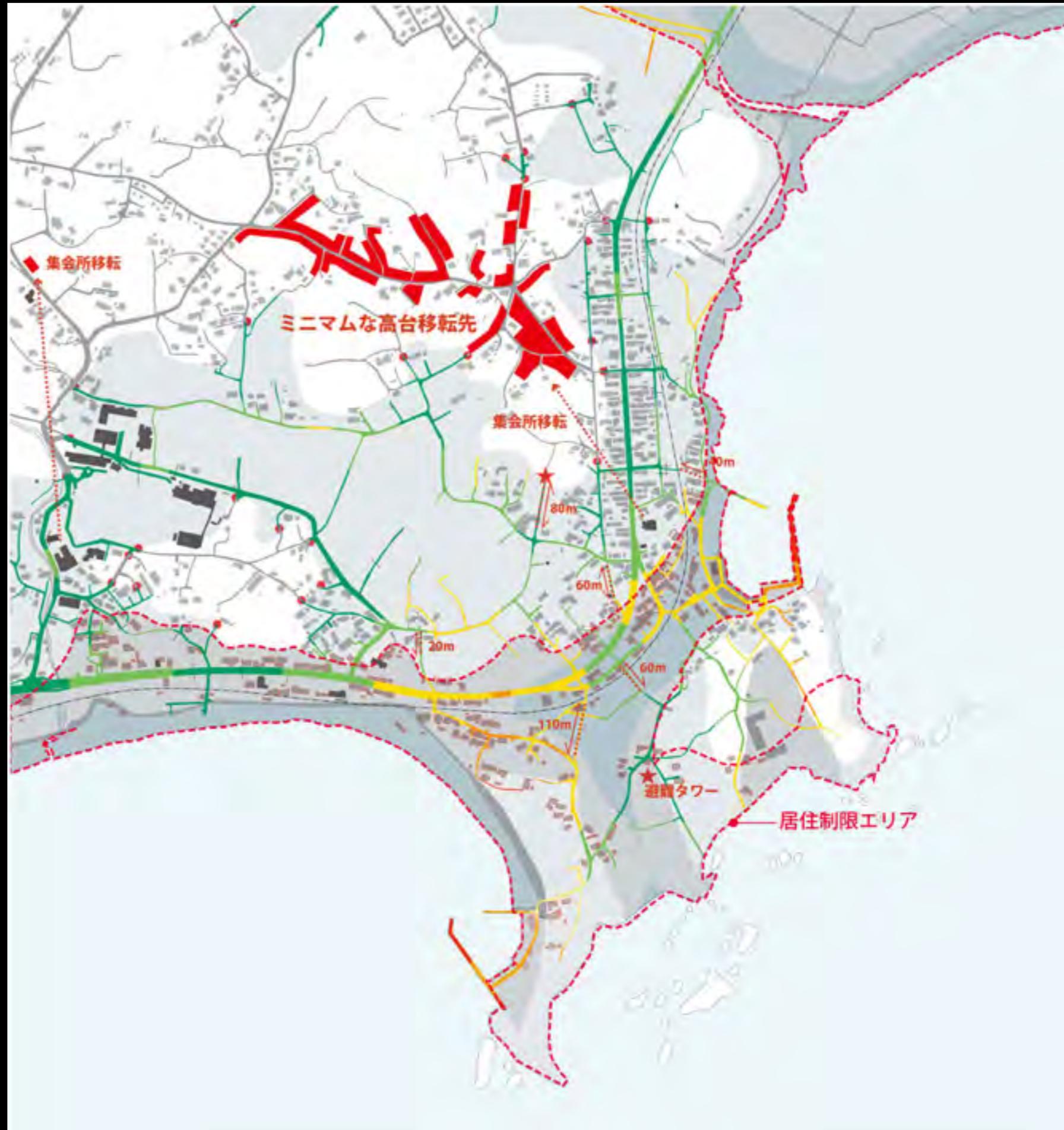
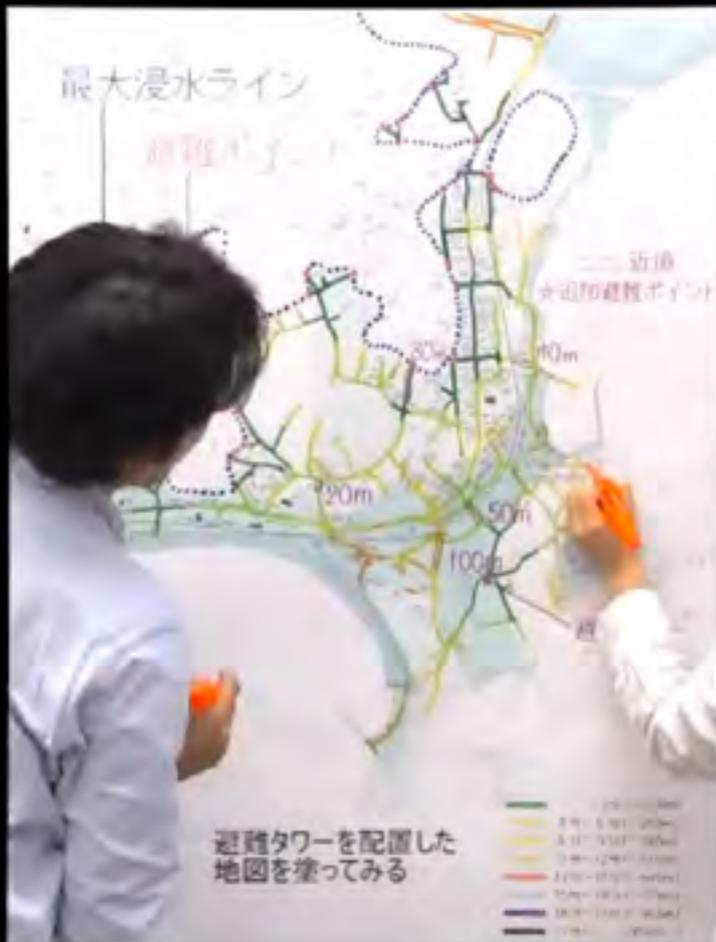


全住戸高台移転案

移転住戸：180戸



リスクの重ね合わせによって、高台移転が急務なエリアを地元住民の合意のもとに決定することができます。
このケーススタディでは、大谷地区においては津波リスクの高い地域と逃げ遅れるリスクの高い地域にある倒壊家屋を優先的に移転させる、**ミニマムな高台移転案**が導き出されます。



企画する！

出口戦略